

ウェッブ・スタイリストの生活と意見[15]

OISR-Watch2000年4月13日号

野村一夫

■ やはりトップページはむずかしい

3月末に自分の個人サイト「ソキウス」(<http://socius.org>)のトップページを大幅に改修しました。タグの変更などは日常的に変えていますが、全体のレイアウト原則を変えたのはほぼ三年ぶりです。下位のページとの関係があるので、なかなかトップはいじりにくいものなんです。

これまでのソキウスのトップページは典型的な第1世代のオーサリングで、縦長のレイアウトでだらだら流れるものでした。私は一覧性にこだわりをもっていまして、かなり長いスクロールが必要でした。もちろんクリックだけであちこち飛べるようにしてありますが、なかなか気づいてもらえないかかったようですね。

じつはその前に「大原デジタルライブラリー」(<http://oisr.org/dglb/>)のレイアウトを改編しまして、それでちょっと思いつきでやってみたのです。こういうことはヒマなときにやるものですが、案外締切であたふたしている合間にやりたくなるもの。まあ、試験直前の学生さんたちの立ちふるまいを笑える立場ではないです。

というわけで、全体をテーブル仕様にし、説明のフォントを小さくして、なるべくコンパクトにしてみました。ちょっと老眼には辛くなりましたが、一般の企業サイトや検索サイトもフォントをスマートにしていっているので、ブラウザで調節してもらうということにしました。

一般にトップページのデザインについては、好みが大きく分かれます。できるだけシンプルにして構造をはっきり意識させるようなデザインにするか、それともコンテンツの詳細をこと細かく説明して賑々しい印象にするか。この選択は意外に難問で、これしだいでサイトの運営方法が左右されてしまいます。

選択すべき大きな軸はふたつあります。ひとつは「シンプル」にするか「饒舌に語るか」の選択です。説明の度合いの取り方を大きくするか小さくするかです。ふたつめは「構造的」にするか「動態的」にするかの選択です。サイトの表現に時間軸をどの程度取り入れるかの選択です。この二つの軸は似ていますが、じつさいにはかなり異なります。

シンプルにするか饒舌にするかは、ウェッブマスターの好みのはっきりでるところで、それゆえ個人ページでは最初のスタイルがそのまま維持されるケースが多いようです。私の場合は少なくともネット上では口数が多い方ですのでシンプルにはなりません。しかし饒舌に説明すると、急ぎ足のビジタ一にはうるさく感じられます。まさに五月の蠅のようにジャマなのです。逆にシンプルにするとオシャレ度が増すのですが、怖がり屋さんの初心者はなかなかクリックしてくれません。また、クリックした先が思い通りのものでないときは、元に戻って選択し直すことになるわけで、意外にムダが多いものです。

そして第二の軸。まず構造的に構成するやり方は一見まっとうなやり方ですが、コンテンツが増えますと、それだけで「なにがなにやら」状態になります。ソキウスの場合も、書き物をどんどん追加

していますので、それらを一通り形式論理的に提示すると、どこに焦点があるのかがわからなくなります。

それに対して、動態的にやるやり方というのは、いきなりトップページに最新のものが提示されるスタイルで、これはこれで最新のコンテンツだけを読む「日記物」などには適しています。当研究所では「五十嵐仁ホームページ」(<http://oisr.org/iga/home.htm>)がそれで成功していますし、ソキウスのおかれているhonya.co.jpのコンテンツである廣瀬克哉さん(法政大学教授)の“ALMOST DAILY honya”(<http://www.honya.co.jp/contents/khirose/daily/index.html>)もいきなり最新コンテンツにしています。あるいはトップにWhat's Newの項目がずらっと並んでいる企業サイトも動態的といえるでしょう。ただし、これはこれで複数コンテンツが同時並行的に進行しているサイトには使いにくいところもあります。読者が全体の見取り図を描けないので、おつきあいもその場かぎりになりがちです。

さて、問題はメンテです。シンプルなのはメンテが楽です。しかし、トップページに来た人は変化を感じないので新しいところに来てくれません。トップがシンプルだと、第二水準のページに中心が移ります。たとえば、トップページにリンクされなくなって、各コーナーのところに直接リンクが張られることになります。もちろんこれはこれで意味があるのですが、他のコーナーの更新に読者は気づかないままになります。トップページを動態的にしておくメリットは、そういう人をていねいにナビゲートできることでしょう。そのかわりメンテがたいへんになります。毎日か毎週か、こまめに更新する必要があります。ある程度ホスピタリティというものが必要ですから、ある程度はきちんと文章にすることが大事です。そうでないと官僚的に感じてしまうものです。

というわけで、今回の改編はこのあたりの落としどころを探ってみたものでした。しかし結局、それについて妥協するしかないというのが結論。やはりトップページはむずかしい。試行錯誤はつづきます。

じつはOISR.ORGのトップページのデザインもまもなく変わります。ここに書いたことは、それについてメーリングリスト上で議論したことでもあります。より使いやすいページにしたいと考えています。今月中にはなんとかなるでしょう。

参考文献

- (1)上木真一ほか『Web制作の仕事術』毎日コミュニケーションズ。
- (2)Raymond Pirouz『INTERNETびっくりHTMLデザイン』エムディエヌコーポレーション。
- (3)デビッド・シーゲル『WEBサイト・デザイン(改訂版)』日経BP社。

(のむらかずお・兼任研究員・社会学 nom@socius.org)

[2000.2.26更新] Cannot Open Index File "/home/.sites/28/site/web/cgi-bin/npc.cgi/counter/count.idx" since 2000.4.18

[OISR-Watch Columns \(Table of Contents\)](#) [次のページへ](#)

[法政大学大原社会問題研究所](http://oisr.org)(<http://oisr.org>)